

とくべつしせき だざいふあと くらつかさ  
**特別史跡『大宰府跡』・蔵司地区の調査成果**

～大宰府史跡第236次調査～

九州歴史資料館 文化財調査室 調査研究班

九州歴史資料館では、大宰府政庁跡西側の蔵司(クラツカサ)の地名が残る丘陵を、平成21年度から継続的に発掘調査しています。現在は、丘陵東側の平坦地(A区)において、<sup>かんが</sup>官衙跡の構造解明に向けた重点調査を実施しています。

**1. 蔵司とは**

古代(奈良・平安時代)の大宰府は、九州全体の行政や軍事・外交を担当した地方最大の役所で、多くの下部組織がありました。その一つが「蔵司」で、九州各地から税として納められた特産品や布を管理していました。発掘調査現場の地名は蔵司で、古代大宰府の「蔵司」があった場所と考えられています。

江戸時代の記録によると、蔵司丘陵上には133個の礎石<sup>せき</sup>が点在し、古い瓦が多く散乱していたようです。

大正3(1914)年、中山平次郎博士は、蔵司丘陵上には多くの礎石が埋没していることや、高熱を受けた鉄製品が多く見つかったことなどから、倉庫や工房が存在したと考えました。

昭和8(1933)年、蔵司丘陵上で工事に伴って畑地を地下げした際、大型礎石<sup>せき</sup>建物跡が発見されました。

その後、調査が行われず詳細は不明なままでしたが、平成21年度以降九州歴史資料館が本格的な発掘調査を開始しました。なお、蔵司地区は大正10(1921)年に政庁跡とともに国の史跡「大宰府跡」に指定され、昭和28(1953)年には特別史跡に昇格しました。

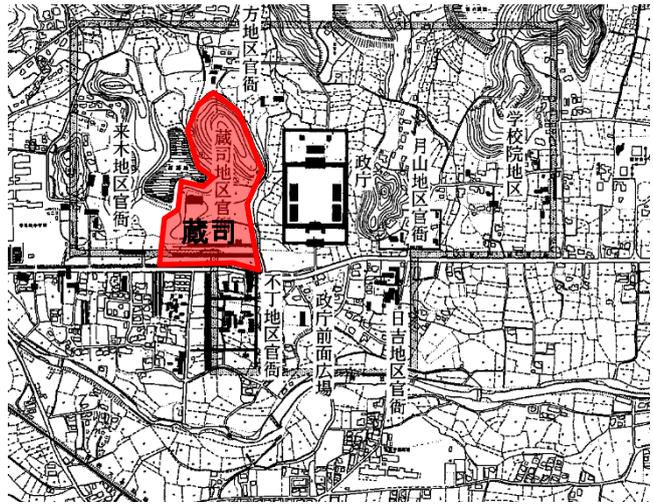


図1 蔵司地区の位置

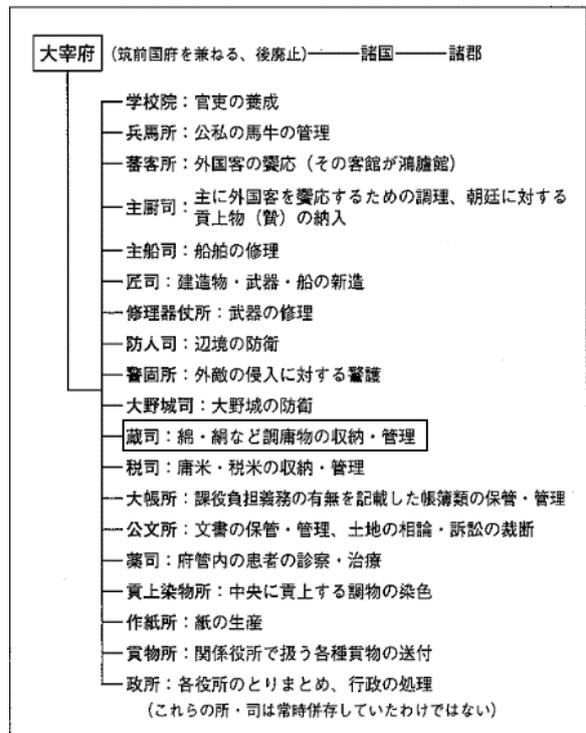


図2 大宰府の実務を担った行政機関「司・所」

## 2. 蔵司A区における重点調査成果

平成28年度から調査を開始した丘陵南部のC区の調査では、南北に並ぶ<sup>そうばしら</sup>総柱構造の瓦葺き礎石建物（高床式倉庫）2棟がみつかっていましたが、平成29年度から開始したA区で新たに東西に並ぶ<sup>たかゆかしき</sup>礎石建物（高床式倉庫）2棟がみつかり、建物群の配置が明らかになりました。

### ●今年度の調査成果

- A区北側で新たに礎石建物2棟を発見したことから、奈良・平安時代には「コ」の字形に建物群（倉庫）を配置し、中央を広場とする構造であることが判明しました。
- 礎石建物に先行する掘立柱建物1棟を発見したことから、蔵司丘陵では大宰府成立期（7世紀末前後）から建物群が配置され、大宰府政庁とともに計画的な官衙の造営が行われたのではないかと推測されます。
- 礎石建物群の時期は、出土した土器や瓦から8～10世紀代と考えられます。
- 発見された建物の特徴
  - ・礎石建物1は総柱構造の瓦葺き礎石建物で、東西14.4m以上、南北9mの規模です。
  - ・礎石建物2は総柱構造の瓦葺き礎石建物で、東西25.2m、南北7.2m、南側に廂が付く構造の建物です。
  - ・礎石建物3・4は総柱構造の瓦葺き礎石建物で、調査区内では東西4.8m以上、南北7.2m以上の規模を確認しています。この礎石建物3・4は昨年発見されたC区の建物群（高床式倉庫）と同じ構造になるとみられます。

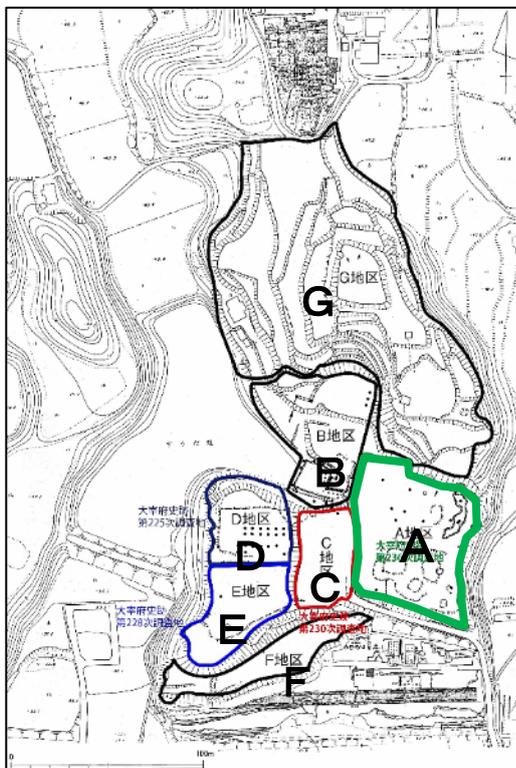


図3 蔵司A区的位置

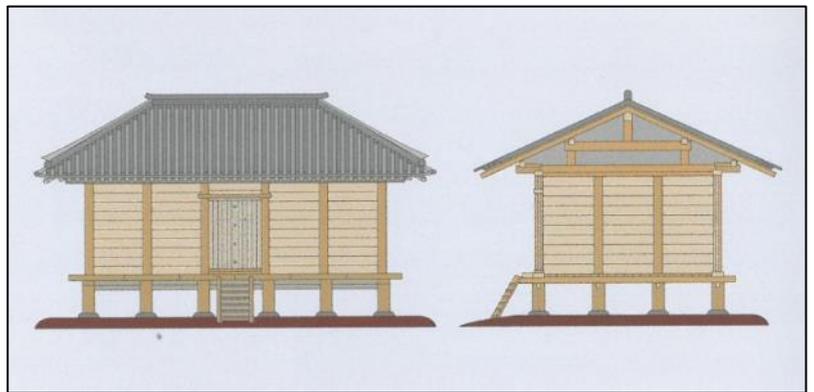


図4 高床式倉庫模式図

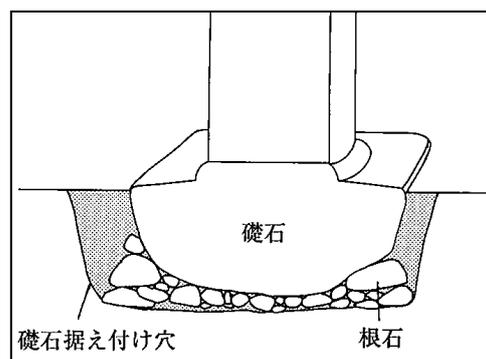


図5 礎石据付状況模式図

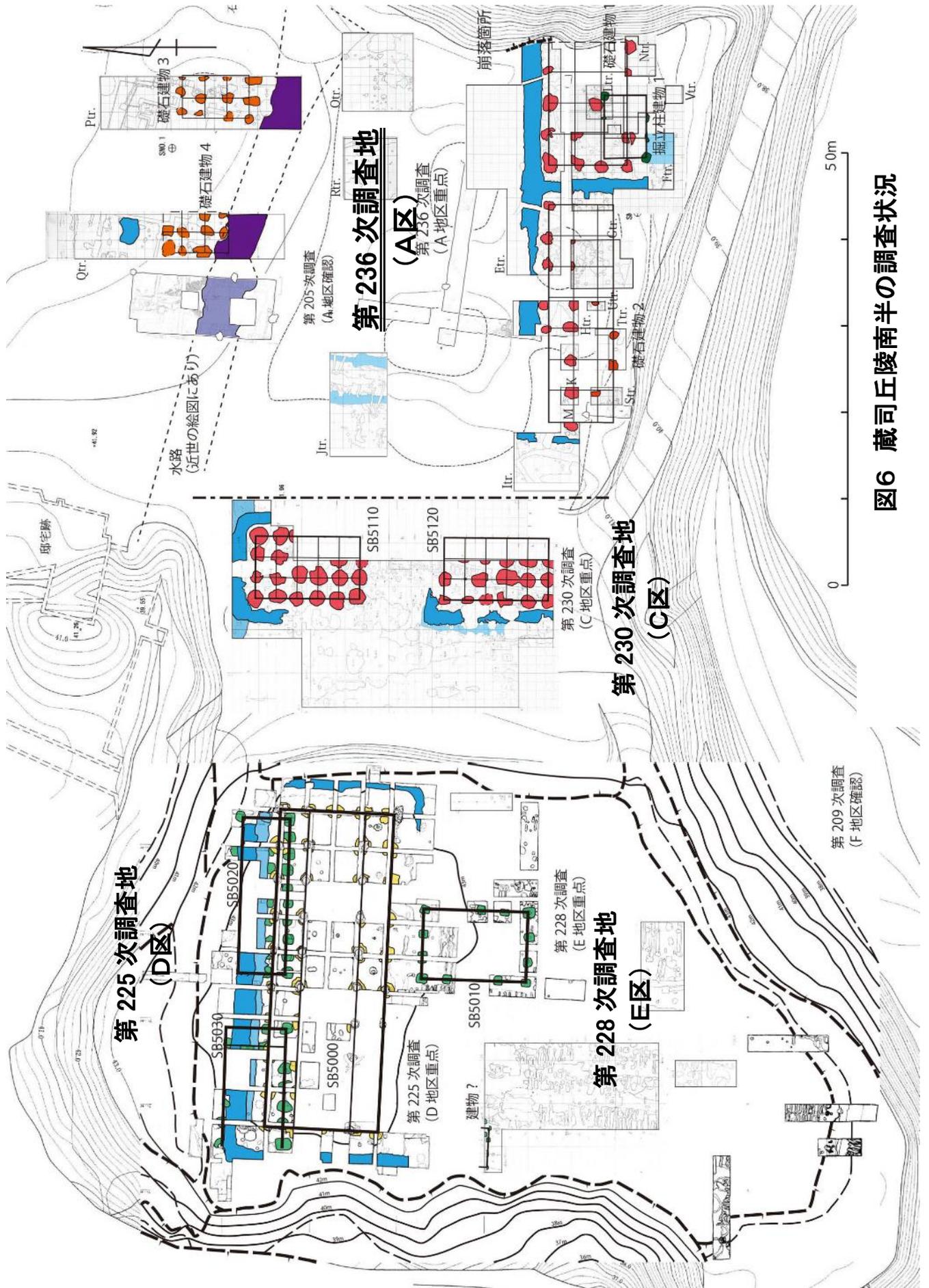


図6 蔵司丘陵南半の調査状況

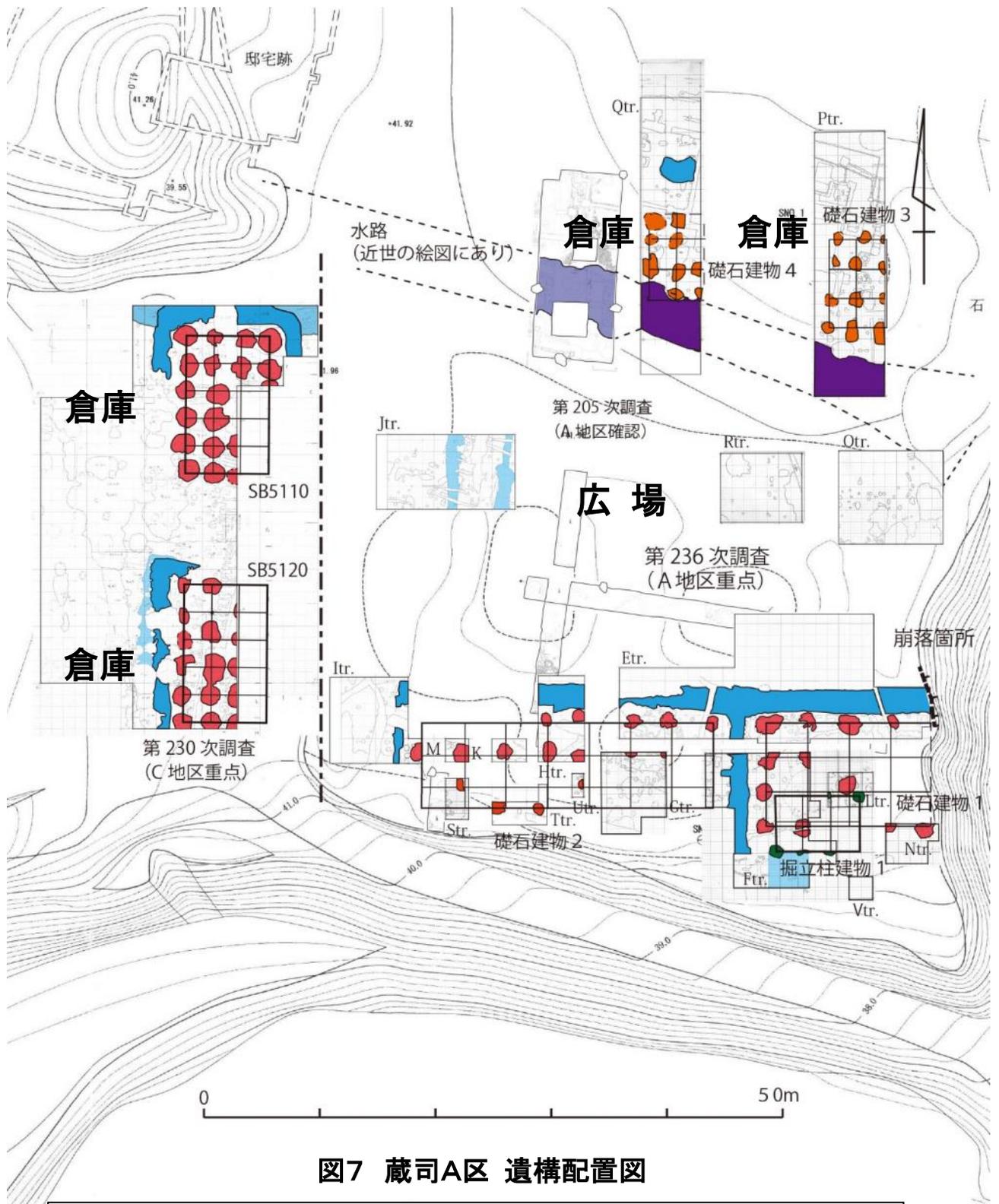


図7 蔵司A区 遺構配置図

出典一覧

- 図1：太宰府市2005『太宰府市史』通史編Ⅰ 一部改変
- 図2：杉原敏之2011『シリーズ「遺跡を学ぶ」076 遠の朝庭・大宰府』（新泉社）一部改変
- 図3・6・7：九州歴史資料館作成
- 図4：九州歴史資料館2015『大宰府史跡ガイドブック2 特別史跡大野城跡』
- 図5：奈良文化財研究所2004『古代の官衙遺跡』Ⅰ遺構編

※現在調査中で、今後修正の可能性もあるため、図6・7の転載は禁止します。